



3月31日、山口さんは入山市長を表敬訪問。歌に込めたふるさとへの思いを話しました。

山口さんは、今年でデビュー10周年を迎える。現在は、岡山県を中心に活動し、月の半分は各地を飛び回っている山口さんだが、デビュー当時から、石本美由起氏と同じふるさとであるということを歌手活動の基本とし、ステージでは、大竹市の発信を欠かさないという。そんな山口さんが、3月19日にふるさとをテーマとする『瀬戸内恋歌／父ゆずり』を発表した。『瀬戸内恋歌』は自身を育んできた瀬戸内を舞台とし

ふるさと思う歌

3月30日、咲き始めた桜の亀居公園に、懐かしいふるさとの歌が響き渡った。「山陽名物数々あれど…」と始まる大竹音頭だ。歌うのは大竹市出身の歌手、山口みさとさん。歌声に合わせて見慣れた踊りがステージを彩った。

『大竹音頭』は、幼い頃より肌に染み込んだふるさとの歌。

—68年ぶりの新録 今、咲き誇る『大竹音頭』—

歌手 山口みさとさん

た、スケール感のあるドラマティックな本格演歌だ。『父ゆずり』は、山口さんの歌のルーツであり師でもある父親との思い出を歌にしたものである。そのカップリングとして、『大竹音頭』が収められている。

『大竹音頭』収録秘話

いつも石本美由起氏の作品をステージで歌っている山口さん。石本美由起氏と同じ日本コロムビアに所属しているということもあり、今作のテーマ『ふるさと』にちなんで『大竹音頭』を収録することとなった。収録を振り返り「幼い頃から親しんでいて、肌に染みついているので、自然に歌うことができました。他の楽曲での収録では、通常数十テイクを歌いますが、『大竹音頭』は2テイクで収録を終えることができました」と語った。伴奏のオーケストラの録音にも参加し、当時の音源に限りなく近づけようと、ミューティングを重ね、試行錯誤したともいう。

大竹でワンマンライブを

『コイ・こいフェスティバル』や『おたけカキ水産まつり』に出演したことがあるという山口さんが、3月30日の『亀居城まつり』で数年ぶりに大竹のステージに立った。石本美由起メドレーや『大竹音頭』などが披露され、会場は歌声に聴き入った。来場者からも「もっと大竹で活動してほしい」という言葉が多くあったという。

現代のクリアな音源としてよみが

CDプレゼント

山口みさとさんから提供していただいた『瀬戸内恋歌／父ゆずり／大竹音頭』のCDを5人の方にプレゼントします。
応募方法 はがき、またはEメールでタイトルに「山口みさとCD希望」本文に住所、氏名、連絡先を記載して次のところへ。

はがき 〒739-0692 大竹市小方1-11-1 大竹市役所企画財政課

Eメール kikaku@city.otake.hiroshima.jp

締め切り 5月20日(火)

応募多数の場合は抽選で決定。当選は発送をもってかえさせていただきます。『広報おたけ』の感想も聞かせてください。



『瀬戸内恋歌』『父ゆずり』『大竹音頭』はカラオケも収録されています。

えった『大竹音頭』。地域の祭りや運動会などで踊ってもらえることを願う山口さんは「今年はデビュー10周年で、『大竹音頭』をレコーディングさせていただいたので、大竹でワンマンライブをして、お客さんに歌を生で聴いてもらいたい」と強く言葉を結んだ。



昭和32(1957)年に、大竹市名誉市民の石本美由起氏が作词、上原げんと氏が作曲、花村菊江さんが歌い、レコード化され、長らく市民に愛されてきた『大竹音頭』が、大竹市出身の歌手、山口みさとさんによって68年ぶりに新録された。

『大竹音頭』にまつわる物語は、広報おたけ令和6年7月号の『振り返る70年』に掲載しています。掲載ページはQRコードから検索できます。

